平成２６年度豪雨による広島土砂災害における
毘沙門台住民自治組織の初動対応の検証会議

９月１０日（水）学区集会所に於いて検証会議を開催しました。
会議には、広島大学大学院　平野　吉信　教授しゼミ学生３名および、中国総合経済研究所、宮本 茂、毘沙門台小学校　山名朋子 校長の他、学区社協から、木村会長、横田自主防会長、岩渕会長、西木会長を含む１０名が参加しての第一回目の災害対応検証会議となりました。

検討された項目は
１．外部からの避難情報受信の状況
２．自主的な情報収集の整理と対応
３．危機回避対応の立案と避難場所開設
４．毘沙門台エリアの被災状況の現状確認と対策
５．応急対応および復旧に関する対応状況
６．その他意見交換

岩渕会長、西木会長、横田防災連会長ほかから活発な発言があり、第一回目の議事録を整理し、災害時の住民の避難情報連絡の在り方、地域コミュニティ再構築に向けた取組み指針も網羅して、土砂災害の記憶を風化させず次の世代にも引継いで行く事を確認しました。
広島大学としても毘沙門台の災害時の取組みを整理し、教訓を各地域に情報発信を発信して防災意識を高める啓発をしてゆきたいとの方針が述べられました。
今後も必要に応じて会議を招集し災害記録の取りまとめを行きたい。

社協事務局　林　　裕